

4 日常での不安や悩み(自由記載)

看護師不足、コロナ患者を受け入れて、現場での物品の不足、入院対応の苦労また受け入れはしていないが、役割を果たしていないというしろめたさを感じている。また看護学生の実習不足など管理者としての調整業務の混乱に悩み、看護職の社会的立場の低さや職場環境改善の必要性の記載がある。

- ・ 訪問看護師不足
コロナ関連感染症予防対策の物品が不足しないか（不安）
- ・ コロナの影響でいったん個室に入院することになり、入院がスムーズにできません。まず入院の受け入れのために精神科病院の新しい施設、当院の精神科の見直しが必要だと思います。
- ・ 日々罹患への不安を持って働いていますどこにも出かけられないという職員の言葉もあります。
- ・ 少しでも早くコロナ以外の患者さんでも急性期の患者を受け入れられるよう毎日ベッドコントロールしています。
- ・ 報道ではコロナを診ない民間病院が注目されています小さな民間病院では各々の事情があり、受けられない現実があります。ジレンマを感じながらいます
- ・ 娘が東京でコロナ病棟です。その他、コロナのことを聞くことが多く滋賀の感染者数の増加に不安を感じます
- ・ 患者さんは地域住民で、生活は続くものですが孤立しておられることはよくわかります。今後は慢性期ケアが長く続くので、支援が手厚く続けられるよう保健衛生の専門家の地道な活動を期待します。
- ・ 県は年齢制限が65歳までとあり、かわることができず残念です。65歳以上でもまだまだ元気で、経験豊かな人材が多くおられます。活用ください。日本看護協会のプラチナナース活用推進事業をご存じですか？在宅医療介護施設・居宅サービス分野等での看護職員の人材不足を解消
- ・ 江戸300年の福祉施策の担い手は誰だったのか、どの階級の人だったのか被援護世帯・・・者への育成支援導きを担った身分制度差別の実態と言われている歴史的課題の理解が誤っているのではないかと。温故知新から研修の見直しを徹底してほしい。と願います
- ・ コロナ病棟へのナースの配置について公平にすべきですが、非常につらいです。
- ・ コロナのために看護学生の技術習得が十分でなく就職します。教育運営にかかる助成金の検討など教育の在り方をどうぞよろしくお願いします(シュミレーターは高くどの臨床現場でもなかなか難題も購入できません。)
- ・ 精神病患者地域移行を進めている中住居や就労のことなど問題が山積だと思っています。また40代50代の引きこもりの精神障害者への取り組みも必要だと実感しています。
- ・ コロナ禍において外食産業が厳しいようです。コロナ終息まで何とか頑張って継続してほしいと願うばかりです。補助等がまだまだ不足のように感じます
- ・ コロナ病棟で師長をしています。そこのスタッフのモチベーションを常に保てるように日々苦勞しています。まだコロナ患者さんの対応を今までのよう患者さんにしたいのですが、防護服着ていく
- ・ コロナ禍による誹謗中傷
- ・ 心のケアについて、コロナによりナース(特に妊婦)の不安感は大きくいつも以上に気にかけながら、スタッフを応援しています。救急医療とコロナ災害に対応できる組織作りを目指しています。そのためにも人を大事にした管理を実践しながら時代に求められる看護が実践できるよう努めていきたいと思っています。
- ・ 高島・湖東地域において病院(総合)が不足し、守山、草津大津、治療に来られています。終末期になっても地域での治療を望まれない方も多く、遠い地域での療養は大変かと思います

- ・障がい者を中心にした療養型の病院で働いています現在はコロナの患者さんは受け入れておりませんが、面会制限を設けているため、通常のケア以外の業務が看護師にとっては負担になっています(家族が行っていたのもつの聖る保管清掃洗濯など)も市職員や患者さんから発生した場合、勤務人員の確保や広範囲な業務の追加が予測され、日常生活補助のすべてを看護が担う介護中心の職場では非常に不安を感じています。
- ・コロナの感染がいつ終息するか、コロナ感染以前の平時がいつ戻るのか。
- ・今後のワクチン接種がどのようになるのか、県民一人一人が心がけていたらクラスターは防げと思うので、熱が出ていたら休む・うそをつかない・正直に話すなどなど気を付けたら濃厚接触者を減らせる、感染者を減らせることにつながることができると思います。
- ・地域で、病院に勤務しているので、何かあったときにどう思われるのか不安です
- ・コロナの対応以外にも看護として日々苦勞しています。そして一県民としてもストレスフリーな生活が迎えられるように思います
- ・こんな日常が来るとは・・・コロナさえなければ…これが現実、前を向いていくしかない
- ・やはりこれからの医療を担う看護の人材確保の必要性です。そのために今わ担う私たちにできることは何かと。政策の協力を得ながら、真剣に考えていくことが必要です。
- ・私の娘も結婚して大阪にお嫁に行き現在看護師をしています金部病院でコロナが発生し、小学生と幼稚園児の孫がいますが、面倒も見てやれず感染したら困るからと言われ来ないでほしいといわれ悲しかったです。各施設に行かれても大名行列にならないようお願いします。
- ・常に看護師不足人材確保に苦勞しています。
- ・①コロナに関係なく保健師が元気でないと地域住民在宅で療養している住民の幸せにつながらないと思います
- ・②国道県道のラインがあちこちで焼失している。県民の安全だけでなく来県してくる観光者の安全と気持ちを考えてください
- ・同居する夫や息子に基礎疾患があり、自分が自宅に持ち込むリスクが高いことは不安です。自宅にペットがたくさんいます犬3匹猫4匹ハリネズミ4匹の世話があり、自宅を半れられない現状です、ペットホテルの拒否も多いと聞いておりますペットの宿泊があるとよいのと思っています。
- ・思い切り外へ出かけて、ストレス発散できない毎日です。滋賀県の明るいこれからのことが分かったので、今しんどくても頑張りたいと思いました。
- ・日々看護職の不足にどう対応すべきか悩んでいますが、これからの時代定年制度について考え方を変えていく必要があるかとぼもいます。再任用制度はありますが、期間も限られています。まだまだ働ける高齢者が長く働き続けられる職場環境づくりが必要だと思います。
- ・今や誰がコロナを持って感染している（わからない）状況の中で、仕事をしていると不安だけです。もっと気軽にPCR検査ができないでしょーか。
- ・看護職として活動し、貢献し続けたい、そのためには自己の心身の健康管理、社会の体制作りを整えていただき期待しております。